

あの地震から...

田麦山小学校 大洲 成美

二〇〇四年十月二十三日、午後五時五十六分頃、町がゆれた。最初は、頭がまっ白になった。地震がきたし、人間は、何が何だかわからなくて、ゆれもあまり分からなかった。テーブルの下に行こうと思ったけど、体が動かなかった。ふとんをかぶってゆれがおさまったとき、兄が助けに来た。出ようとしたら、片方の戸がふさがれていた。最初は困った。『どうしよう。』この気持ちがおさまらなかつた。しばらく、じいちゃんとおばあちゃん、と兄と私で、茶の間へ避難した。そして十数分たつた時、お母さんとお父さんが歩いて家に帰って来た。とても中びした。その後、みんなが小高のセンターへ避難した。どんどんどんどん人が来た。その夜は、あまり眠れなかった。翌朝の朝ごはんはもちだつた。とてもおいしく感じた。友達も、夕

しぶりな感じで話した。おたがいに地震のこと
とを話した。

そしてまたちがう場所へ避難した。そこは
だれかの家の車庫だった。そして三回目のひ
難場所は、田麦山小学校だった。学校にはた
くさんの友達がいとうれしかった。お母さん
も、「これなら安心だね。」と言った。

数日後、ボランティアがいっばいきた。ボ
ランティアの人たちはとても優しくかった。オ
ールとちぎの方が作ってくれたお風呂はとて
も気持ちよかった。他のボランティアとも遊
んで楽しかった。避難生活はつらかったけど
笑顔をやさぐにいたいと思っただ。これもが地
震直後の出来事と感じたことだ。

地震後いるんなことを通して学んだことが
三つある。一つ目は、人の優しさだ。地
震が来てから初めて、人の優しさを知った。

二つ目は、家族の大切さだ。今まで
親たちは何そしていいかと思っただけど
地震を経験して、どんなに温かく見守って

るかが分かった。

三つ目は、「命の大切さ」だ。私は、今生きていることに感謝している。私は、もう少しで、ダンスの下じきになって死んでいたかもしれない。だから今は生きていることに感謝したい。

あの地震から、一年が過ぎた。私は、これからもこの大切な物を忘れずに生きていきたい。